

令和 2 年度
特定非営利活動法人 光の岬福祉研究会

ひかりの岬こどもデイサービスセンター利用児童の
保護者による評価調査報告書

調査概要

1. 目的

去る平成29年1月、厚生労働省によって「放課後等デイサービスガイドライン」の遵守と自己評価結果の公表に関するガイドラインが出されました。

また、平成29年4月より児童福祉法に基づく指定通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準（平成24年2月厚生労働省令第15号）の規定により、障害児通所支援事業者に、自己評価等の公表が義務付けられたことを受け、法人の運営する放課後等デイサービス事業所2カ所の利用者を対象に、事業所が提供しているサービスについてどのように感じているのか、その現状を把握するとともに、その改善点を明らかにし、事業所運営の参考にすることを目的に調査を実施した。

2. 調査対象

放課後等デイサービスを利用している児童の保護者30名を対象に調査を実施した。24名から回答があり、回収率と有効回答率は下記のとおりである。

回収率 80.0% 有効回答率 80.0%

3. 調査期間

令和3年1月4日（月）～令和3年2月6日（土）

4. 調査方法

厚生労働省による「放課後等デイサービス自己評価票（事業者用）」のチェック項目を基に、5件法および自由記述で回答いただいた。調査は調査票に記入していただく方式とし、事業所の担当者から各保護者に調査依頼文書等とあわせて配布した。

調査票の回収は、個人が特定できないようにし、調査票と共に配布した返信用封筒にて郵送していただいた。

また、昨年度までは、青森県立保健大学の齋藤史彦先生に調査を依頼していたが、調査項目に毎年大きな変化がないため、調査方法に変化をつけ回答率を伸ばす試みとして、法人から直接依頼することとした。

5. 倫理的配慮

調査票の回収は匿名で行い、個人が特定されないようにした。

ひかりの岬こどもデイサービスセンター保護者評価集計表

回答率80% 有効回答数24名

	チェック項目	そう思う		どちらかと言えばそう思う		どちらとも言えない		どちらかと言えばそう思わない		そう思わない		無回答	
		人数 (人)	構成 比	人数 (人)	構成 比	人数 (人)	構成 比	人数 (人)	構成 比	人数 (人)	構成 比	人数 (人)	構成 比
①	この事業所は、児童の人数に対して、訓練含む活動のスペースが十分に確保されていると思う。	14	58%	10	42%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
②	この事業所の職員数は児童の数に対して十分に適切である。	13	54%	10	42%	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%
③	この事業所の設備は、バリアフリーの観点から見て適切な配慮が、十分になされている。	5	21%	9	38%	5	21%	3	13%	0	0%	2	8%
④	この事業所は、保護者に支援内容や利用者負担など、利用に必要な情報について丁寧な説明を行っている。	19	79%	5	21%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
⑤	この事業所は児童や保護者からの苦情にどのように対応するかを丁寧に説明している。	16	67%	7	29%	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%
⑥	この事業所は個人情報の管理体制について、保護者に説明している。	20	83%	3	13%	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%
⑦	この事業所は定期的に、活動概要等の情報や自己評価結果など、事業所の運営に関する情報を児童や保護者に公開している。	16	67%	7	29%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4%
⑧	この事業所は児童と保護者のニーズや課題を放課後等デイサービス計画に反映している。	17	71%	7	29%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
⑨	この事業所は活動プログラムがパターン化しないような工夫をしている。	12	50%	11	46%	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%
⑩	この事業所は地域住民や障害のない児童など、事業所外との交流を行っている。	10	42%	7	29%	7	29%	0	0%	0	0%	0	0%
⑪	この事業所の職員とは、日頃から児童の発達や課題について、共通理解をもっている。	19	79%	5	21%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
⑫	この事業所では必要に応じて保護者に対する面談を行っている。	20	83%	3	13%	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%
⑬	この事業所では、保護者同士の連携が支援されている。	2	8%	5	21%	15	63%	1	4%	1	4%	0	0%
⑭	この事業所は、児童や保護者からの苦情に対して、迅速かつ丁寧に対応している。	15	63%	8	33%	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%
⑮	あなたはこの事業所の緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルをよく理解している。	7	29%	15	63%	1	4%	1	4%	0	0%	0	0%
⑯	この事業所は非常災害の発生に備え、必要な訓練を定期的に行っている。	8	33%	9	38%	7	29%	0	0%	0	0%	0	0%
⑰	あなたからみて、子どもはこの事業所への通所を楽しんでいる。	21	88%	3	13%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

⑩ この調査や法人、事業所の運営についてご意見がありましたら、ご記入ください。

- ・お世話になっております。ひかりさんは、子供だけでなく、私達親の支えにもなってくださり、とても助かります。これからもよろしくお願ひします。
- ・毎回とても楽しそうに行かせて頂いています。子供の気持ちを考え、色々な活動をしてもらったり、話を聞いてもらったりで助けられています。
- ・今年度はコロナ禍の中、様々な対応が大変だったことだと思いますが、我が子が楽しく利用している様子からもスタッフの皆さんのご苦労や努力を感じております。いつもありがとうございます。
- ・利用者だけでなく、保護者にも丁寧な対応をしてくれて、本当に感謝しています。いつもありがとうございます。
- ・子供もひかりの岬に行くのを楽しみにしています。今後もよろしくお願ひします。
- ・研修等で土曜日の利用ができないことがあります、平日の午前等利用者がいない時間を利用するなど、影響が最小限になるようにしてほしいです。

保護者からの放課後等デイサービス事業所評価の集計を踏まえた対応等について

	チェック項目	調査結果から感じた対応について
①	この事業所は、児童の人数に対して、訓練含む活動のスペースが十分に確保されていると思う。	集計結果からも、ほぼ確保されていると考えらえる。常に模索しながら、遊びのスペース確保に努める。
②	この事業所の職員数は児童の数に対して十分に適切である。	適切であると考えられるが「どちらとも言えない」の回答が一名あり、どの点でそう感じられたのか不明だが、充分な申し送りをする。
③	この事業所の設備は、バリアフリーの観点から見て適切な配慮が、十分になされている。	設備としては、玄関スロープ、広いトイレ、身体介助用のスペース等が必要と考えられる。人的サポートは常に意識する。
④	この事業所は、保護者に支援内容や利用者負担など、利用に必要な情報について丁寧な説明を行っている。	ほぼ行われていると考えられるが、今以上に分かりやすい説明を意識する。
⑤	この事業所は児童や保護者からの苦情にどのように対応するかを丁寧に説明している。	肯定的な回答が多いので、今後も丁寧な説明を心がける
⑥	この事業所は個人情報の管理体制について、保護者に説明している。	中立的な回答もあるため、個人情報記載のものについては、管理方法も含め、丁寧な説明を心がける。
⑦	この事業所は定期的に、活動概要等の情報や自己評価結果など、事業所の運営に関する情報を児童や保護者に公開している。	公開はしているが、HP上だけでなく、紙媒体での通知も必要ではないかと考える。
⑧	この事業所は児童と保護者のニーズや課題を放課後等デイサービス計画に反映している。	肯定的な回答が多いので、今後も面談時の確認、見直し、申し送り時の情報等を参考にしていく。
⑨	この事業所は活動プログラムがパターン化しないような工夫をしている。	常に新しい情報を取り入れ、パターン化、マンネリ化しない様心がける。今年度はコロナの影響により、室内活動が主であった。
⑩	この事業所は地域住民や障害のない児童など、事業所外との交流を行っている。	コロナの影響により、例年より少なかったが、近隣住民との交流の様子を、報告するようにしていきたい。
⑪	この事業所の職員とは、日頃から児童の発達や課題について、共通理解をもっている。	肯定的な回答が多く、共通理解が出来ていると考えられるが、普段の家庭への申し送りや職員間の申し送り、メール等を活用し、情報共有していく。
⑫	この事業所では必要に応じて保護者に対する面談を行っている。	年一回の面談は必須で実施しているが、今年度は感染症対策のため、希望制にした。相談カードなど用意し、気軽に相談できる環境を整える。
⑬	この事業所では、保護者同士の連携が支援されている。	回答が分散しているため、保護者会等の設置も考えてみる。保護者間での連携のニーズ調査をしてみることも一案。
⑭	この事業所は、児童や保護者からの苦情に対して、迅速かつ丁寧に対応している。	今後も苦情があったその日に丁寧に対応し、職員間の認識、周知を高めていきたい。
⑮	あなたはこの事業所の緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルをよく理解している。	感染症対応マニュアルについては、年一回の見直しと配布。緊急時対応マニュアルについては、見直しを検討する。
⑯	この事業所は非常災害の発生に備え、必要な訓練を定期的に行っている。	年二回は実施しているが、災害の種類に合わせて、年四回は実施したい。併せて実施の結果等も保護者に報告していきたい。
⑰	あなたからみて、子どもはこの事業所への通所を楽しんでいる。	回答から、ほぼ全ての児童が楽しんでくれていると考えられる。コロナ禍で活動の制限もあるが、利用児童が楽しめることを常に意識していく。

【総評】
ほぼ好意的な意見が多かったが、この調査結果を踏まえ、慢心することなく支援していきたいと感じた。また、研修日の案内や、理由の説明が不足していたことも分かり、今後の取り組みに活かしていきたい。

令和2年度
特定非営利活動法人 光の岬福祉研究会

ひかりの岬こどもデイサービスセンター職員による
自己評価調査報告書

青森県立保健大学 健康科学部 社会福祉学科
齋藤史彦

調査概要

1. 目的

去る2017年1月、厚生労働省によって「放課後等デイサービスガイドライン」の遵守と自己評価結果の公表に関するガイドラインが出されたことを受け（平成29年4月からは義務実施）、NPO法人光の岬福祉研究会の依頼に基づき、同法人の運営する放課後等デイサービス事業所2カ所の職員を対象に、事業所が提供しているサービスについてどのように感じているのか、その現状を把握するとともに、その改善点を明らかにし、事業所運営の参考にすることを目的に調査を実施した。

2. 調査対象

当該法人の運営するひかりの岬こどもデイサービスセンターで、直接子どもと関わり支援をしている職員7名を対象に実施した。各調査対象への回収率と有効回答率は下記のとおりである。

回収率100.0% 有効回答率100.0%

3. 調査期間

令和3年2月5日（金）～令和3年2月19日（金）

4. 調査方法

厚生労働省が示す「放課後等デイサービス自己評価票（事業者用）」のチェック項目を基に調査項目を設け、「あてはまる」～「あてはまらない」の5件法で調査票を作成した。

作成した調査票をGoogleフォームにあげ、当該職員がスマートフォン等で入力できるようにした。主な調査項目は以下のとおりである。

- ①環境・体制整備（活動スペース、職員配置数の適否についてなど）
- ②業務改善（PDCAサイクルへの職員参加、自己評価結果の公表など）
- ③適切な支援の提供（面談の有無、プログラムが固定化しない工夫など）
- ④関係機関や保護者との連携（学校との情報共有など）
- ⑤保護者への説明責任（利用者負担等についての説明、個人情報の扱いなど）
- ⑥非常時等の対応（避難訓練等の実施、ヒヤリハット集の作成など）
- ⑦回答者の属性（年齢、障害児福祉分野での経験年数）
- ⑧その他

5. 倫理的配慮

調査票の回収は匿名で行い、個人が特定されないようにした。また、データは本調査以外では使用せず、回答用紙は人の目に触れないよう厳重に保管することや、この調査への協力は任意であり、協力しない場合であってもなんら不利益にはならないことを調査依頼文書に明記することで、プライバシーに配慮し、任意での調査であることを伝えた。

職員による自己評価集計表

		そう思う 5		どちらかと言 えば そう思う 4		どちらとも言 えない 3		どちらかと言 えば そう思わない 2		そう思わない 1		無回答	
		人数 (人)	構成 比	人数 (人)	構成 比	人数 (人)	構成 比	人数 (人)	構成 比	人数 (人)	構成 比	人数 (人)	構成 比
①	Q 1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	57.1%	2	28.6%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
②	Q 2 職員の配置数は適切である	4	57.1%	1	14.3%	1	14.3%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%
③	Q 3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0	0.0%	2	28.6%	1	14.3%	1	14.3%	3	42.9%	0	0.0%
④	Q 4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	2	28.6%	2	28.6%	2	28.6%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%
⑤	Q 5 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	57.1%	1	14.3%	2	28.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑥	Q 6 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	42.9%	4	57.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑦	Q 7 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	7	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑧	Q 8 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	85.7%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑨	Q 9 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	28.6%	4	57.1%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑩	Q 10 活動プログラムの立案をチームで行っている	2	28.6%	4	57.1%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑪	Q 11 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	2	28.6%	5	71.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑫	Q 12 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	3	42.9%	2	28.6%	2	28.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑬	Q 13 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	4	57.1%	3	42.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑭	Q 14 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	85.7%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑮	Q 15 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	42.9%	1	14.3%	2	28.6%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%
⑯	Q 16 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	42.9%	4	57.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑰	Q 17 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	71.4%	1	14.3%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑱	Q 18 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	0	0.0%	6	85.7%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑲	Q 19 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	57.1%	3	42.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑳	Q 20 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行ってい	5	71.4%	2	28.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
㉑	Q 21 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	0.0%	6	85.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%

(22)	Q 22 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0	0.0%	6	85.7%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%
(23)	Q 23 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	57.1%	3	42.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
(24)	Q 24 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	42.9%	3	42.9%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%
(25)	Q 25 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	0.0%	1	14.3%	3	42.9%	0	0.0%	3	42.9%	0	0.0%
(26)	Q 26 (地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	0	0.0%	2	28.6%	3	42.9%	2	28.6%	0	0.0%	0	0.0%
(27)	Q 27 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3	42.9%	4	57.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
(28)	Q 28 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	14.3%	2	28.6%	3	42.9%	3	42.9%	1	14.3%	0	0.0%
(29)	Q 29 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	57.1%	3	42.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
(30)	Q 30 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	85.7%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
(31)	Q 31 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	14.3%	0	0.0%	4	57.1%	0	0.0%	2	28.6%	0	0.0%
(32)	Q 32 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	3	42.9%	4	57.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
(33)	Q 33 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	71.4%	2	28.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
(34)	Q 34 個人情報に十分注意しているか	5	71.4%	2	28.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
(35)	Q 35 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	85.7%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
(36)	Q 36 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	0.0%	1	14.3%	5	71.4%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%
(37)	Q 37 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	1	14.3%	6	85.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
(38)	Q 38 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	0	0.0%	6	85.7%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
(39)	Q 39 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	57.1%	3	42.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
(40)	Q 40 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	0	0.0%	6	85.7%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
(41)	Q 41 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	57.1%	3	42.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
(42)	Q 42 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	1	14.3%	1	14.3%	3	42.9%	2	28.6%	0	0.0%	0	0.0%

職員による自己評価の集計結果を踏まえた対応等について

		工夫している点、課題や改善すべき点など
①	Q1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	基準以上のスペースは確保しているが、児童の相性によりスペースの確保が難しい場面もある。
②	Q2 職員の配置数は適切である	個別対応(コミュニケーショントレーニング)や送迎が必要な場面での人員が不足していると感じることもあるが、時間やプログラムの調整等で対応している。
③	Q3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	物理的なバリアの困難さを人的なバリアフリーでカバーしている。
④	Q4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	職員の特性に合わせ、フレームワークにとらわれすぎない様配慮している。
⑤	Q5 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページなどで公開している	紙媒体での保護者への結果報告もあってもいいかもしれない。
⑥	Q6 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	評価結果を下に、振り返りの機会をもうけている。
⑦	Q7 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	確保できている。
⑧	Q8 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	ほぼできている。
⑨	Q9 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	ほぼできている。
⑩	Q10 活動プログラムの立案をチームで行っている	担当制で実施し、都度チーム全体で見直し、改善を行っている。
⑪	Q11 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	企画立案を工夫してはいるが、アイデアがマンネリ化している部分もあり、工夫を要する。
⑫	Q12 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	利用時間の長さに応じてメリハリが出るように、設定している。
⑬	Q13 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	ほぼできている。
⑭	Q14 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	確認できている。
⑮	Q15 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	送迎からの帰所時間が一定でないことや、延長対応の職員がいることから、全員そろってとまではいかないが、情報共有はしている。
⑯	Q16 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	ほぼできている。
⑰	Q17 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	ほぼできている。
⑱	Q18 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	ガイドラインに目通す機会を増やして、スタッフ間で共有していきたい。
⑲	Q19 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	主に自発管が担っているが、支援スタッフも出席する機会を増やしていくたい。
⑳	Q20 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	ほぼできている。
㉑	Q21 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	保護者との連絡体制はできているが、主治医とはできていない。今後医療的ケア児を受け入れる場合必要になってくると思われる。
㉒	Q22 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	移行会議等の実施がケースによりまちまちなので、統一したものがあればと考える。

(23)	Q23 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	移行シートの作成、移行会議の開催等により、相互理解に努めている。
(24)	Q24 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	勤務調整等をしながら、積極的な参加を促していきたい。
(25)	Q25 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	交流の機会がほぼ持てていない。
(26)	Q26 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	ほぼ参加できていない。
(27)	Q27 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	ほぼできている。
(28)	Q28 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	ペアレントトレーニングの理解を職員間で深めてから、保護者への支援を行うようとする。
(29)	Q29 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	ほぼできている。
(30)	Q30 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	ほぼできている。
(31)	Q31 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	ほぼできていないので、ニーズ調査の上何らかの関わりは必要と思われる。
(32)	Q32 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	苦情があった場合は、早く正確に情報共有することに努めている。
(33)	Q33 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	ほぼできている。
(34)	Q34 個人情報に十分注意しているか	ほぼできている。
(35)	Q35 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	配慮している。
(36)	Q36 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	ほぼできていない。
(37)	Q37 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	感染症対応マニュアルについては、年一回配布。緊急時対応まにゅあるについては、昨今の社会情勢の変化により見直しが必要と考えられる。
(38)	Q38 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	年二回実施。年4回実施を目指したい。
(39)	Q39 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	アンガーマネジメント等の内部研修の実施。
(40)	Q40 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	面談時における説明は実施している。
(41)	Q41 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	処方箋にて確認し、対応一覧表を作成している。
(42)	Q42 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	ヒヤリハットに敏感になり、作成をするようにしていく。